



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL <http://www.tonyamachi.com> E-mail info@tonyamachi.com 発行/2019年1月1日



新年あけましておめでとございます。



理事長

西 秀 記

2018年を表す漢字として「災」が選ばれるなど、昨年は、地震や台風、豪雨、豪雪など、全国的に多くの自然災害に見舞われた1年となりました。国内経済に目を移すと、5年半におよぶアベノミクスの推進により、個人消費と設備投資が堅調に推移し、緩やかな景気回復が続いております。一方、人手不足が顕著になってきており、有効求人倍率は全国平均で1.6倍、青森県でも1.2倍を超えており、中小企業にとっては非常に厳しい雇用環境となり、経営を圧迫してきております。

このような状況のもと、昨年の問屋町は、「経済的価値創出事業」では、最優先課題であります組合員跡地問題に積極的に取り組んできた結果、跡地取得により4社が新規に加入したほか、既存組合員による跡地買増しが4件実施されました。組合員の社屋新・改築が進み、問屋町会館前にセブンイレブンが開店するなど、団地内再整備が一段と進みました。

「社会的価値創出事業」では、健康事業でインフルエンザ集団予防接種を実施し、受診者数は千人を超え、集団健康診断は約7百人が受診。また、一般市民向けの問屋町地区健康診断も3回行われ、72人の方々が利用するなど、青森市南部地区の健康づくりの拠点としての役割を担っております。その他、安心・安全事業では、青森市の協力により、団地全域の街路灯のLED化や問屋町地区の街路樹の一部伐採、バス停2ヶ所が再整備されるなど、働きやすく、安心・安全な街づくりが進み、ビジネスパークに向かって加速することが出来ました。

「文化的価値創出事業」では、一昨年に引き続き問屋町大通りにフラワーボックスを設置したほか、花の植え方教室や花の種の無料配付を実施するなど、問屋町花いっぱいプロジェクトを推進し、景観向上を図りました。また、コミュニケーション事業では、青森問屋町経営同友会と問屋町支店長・所長連絡会の活発な活動により企業間交流が進み、合同清掃や納涼パーティー、組合員昼食会への参加者が増加するなど、組合活動の活性化につながっています。

さて、本年は、新天皇の即位を迎え祝賀ムードに包まれる一方、昨年末からの株価下落、消費税増税など不安要素も抱えております。そのような中、問屋町では、組合員企業の喫緊の課題となっている人材確保対策として合同企業説明会を企画するなど、採用活動を支援します。また、4月よりスタートする働き方改革についても、高まる労務リスクを回避できるよう、就業規則の改定や労働環境整備、生産性向上につながる情報を提供するなど、サポートに努めてまいります。

新しい年が、自然災害がなく、新天皇の即位を祝い、そして組合員の皆様の更なる発展につながるよう心からお祈りいたします。

**問屋町ビジネススクール
2019年度カリキュラム承認
第9回理事会**

12月19日(木)に第9回理事会が開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは、県内の大学を対象とした共同求人活動について報告した。
主な案件審議は次のとおり。
案件一・問屋町ビジネススクール運営委員会からの意見について
2019年度のカリキュラムなどが承認された。
案件二・組合員の所有権移転登記について
案件三・2018年度第10回理事会の日程等について

組合員昼食会が12月6日(木)に問屋町会館2階大会議室で開催され、組合員ら49名が参加した。
はじめに青森県消費生活センターの増田課長が「消費生活ミニ講座」として特殊詐欺や架空請求などの消費者トラブル対処法について説明した。
今年度、同センターに寄せられた相談件数は5千件を超え、相談内容の上位を占めるのがメールによる架空請求。架空請求の対処法として①メールに記載されたURLを開かない②迷惑メールを集め

**消費者トラブルの対処法についてなど学ぶ
組合員昼食会**

鳥事務局長が、事務局員として、日常どのような事に気を留めながら業務に取り組みべきか、これまでの自身の経験を踏まえながら語った。
その後、グループに分かれ、普段の業務上で感じていることや各々の団地で抱えている課題など、活発な意見交換が行われた。

鳥事務局長が、事務局員として、日常どのような事に気を留めながら業務に取り組みべきか、これまでの自身の経験を踏まえながら語った。
その後、グループに分かれ、普段の業務上で感じていることや各々の団地で抱えている課題など、活発な意見交換が行われた。

商団連事務局職員研修会

全国卸商業団地協同組合連合会(商団連)に加盟している卸団地組合の事務局職員を対象とした研修会が、12月6日、7日の2日間にわたり東京で開催され、26団地から31名が参加。当組合からは西田業務課長と五十嵐職員が出席した。

研修会では、商団連事務局長の葛永代表世話人(協ベイトウン尾道 専務理事)が、「団地組合の更なる発展のために」をテーマに、団地組合の現状や課題、今後の組合組織の活性化や組合事務局の役割の方向性について話した。
続いて、(協)津卸商業センター稲森専務理事と(協)横浜マーチャンダイジングセンター中



事務局職員研修会

- ① 1日 時
- ② 午後7時～9時
- ③ 参加料 2,100円
- ④ 定員 40名
- ▽問屋町ボルダリング教室

問屋町たんしん

- ① 1日 時
- ② 午後零時15分～午後1時
- ③ 募集人数 30名
- ④ 参加料 2,000円
- (記念品・お礼・お守り含む)
- ▽第7回問屋町従業員親睦交流会

- ① 1日 時
- ② 午後7時～8時
- ③ 参加料 500円
- ④ 定員 10名
- お申込み・お問い合わせは、卸センター業務部(☎73814711)まで

業務報告

主要事項

- 12月
- 5日▽青森中金会役員会・講演会・懇親会
- 6日▽組合員昼食会
- ▽商団連組合事務局職員研修会(～7日)

- ① 1日 時
- ② 午後7時～8時
- ③ 参加料 500円
- ④ 定員 10名
- お申込み・お問い合わせは、卸センター業務部(☎73814711)まで

ている団体へ転送する③相手に連絡しないことと説明。
増田課長は最後に「裁判所へ訴える」強制執行する。と書かれている場合もあるが、慌てて連絡しないこと。相談無料なので、まずは消費生活センターへご連絡ください」と注意を促した。
続いて(株)角弘とメインマーク(株)の担当者が「業務を止めずに建物床の傾きや段差を水平に戻す工法」を紹介した。
長は「経年劣化や荷重によるコンクリート土間床の沈下・段差・空洞を、発砲硬質ウレタンで修繕するテラテック工法は、樹脂を注入する孔が1円玉以下の大きさとなるた

め、施工前の機械・荷物移動が不要となり営業停止期間が発生しない。従来工法に比べ工期が短く低コスト、低リスクとなる画期的な工法です」と話した。
次に、(株)リエラの今社長が「地下水熱を利用した融雪・空調」について紹介した。
今社長は「地下水の温度は一年中15℃前後と一定の温度に保たれている。その地下水熱を利用した冷暖房や調湿空調設備、低温融雪設備などの



組合員昼食会

▽みち銀グリーンクラブ
総会・懇親会
7日▽県中央会理事會
10日▽第1回問屋町ビジネススクール運営委員会
13日▽第7回フラワーアレンジメント教室
15日▽簡易郵便局東青プロジェクト研究会
17日▽金融審査会
18日▽大星神社御幣立
20日▽第9回理事会
21日▽商団連事務局次世代の会

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てをたまわり厚くお礼申しあげます。本年も変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願ひ申しあげます。

青森問屋町配送(株)

代表取締役 西 秀記
常務取締役 赤坂 晃

北日本流通ヴァン(株)

代表取締役 橋本 昭一
取締役副社長 西 秀記
専務取締役 藤本 和夫
常務取締役 森山 慶一

新年のメッセー

(協)青森総合卸センター事務局職員



専務理事
藤本 和夫

昨年の流行語大賞は、わたくし的にはNHKのチョコちゃんに叱られる「ポ〜っと生きてんじゃねーよ!」でした。

この言葉、今時は、家庭や会社で使ったらパワハラと言われそうですが、5才のチョコちゃんだから許されるといのがミソです。どうやら気付け薬的に自分に向かつて言うしかないみたいです。

2019年は消費税増税による経済の減速が懸念されます。それ以上に米中摩擦など国内外とも変化のスピードやブレも心配されます。しかし「過去も大変でない年はなかった」ということに思いをはせ、現場力で乗り切りたいと思います。



理事・事務局長
青森問屋町配送係事務取締役
赤坂 晃

昨年還暦を迎えるにあたり、肉體改造に挑戦したものの現状維持となり、意思の弱さを知りました。今年は、日本各地へ御朱印の旅に出かけたいと思います。

本年は、新天皇即位を祝い、組合員皆様のご発展を心からお祈りいたします。



業務部長
小田切 勇治

平成最後の年が終わり新元号が気になるところですが、自分の体力が落ちていくのも気になるところ。

新年は、会社の裏にあるボルダリングジムに通って頭もカラダもリフレッシュ!
最高な一年になります!



業務課長
西田 一実

2018年を表す漢字は「災」でしたが、個人的には「別」の1年でした。

まだまだ45歳。老け込まないよう「活」の一字で、生き活きと活動的な1年に。また、新たな事にチャレンジし、「会」の一字で、色んな所に顔を出したいと思えます。

新年を迎え、気持ちも新たに猪突猛進します。



総務課長代理
成田 賀子

昨年は胃と大腸カメラの検査・インフルエンザと免疫力の低下を痛感しました。



総務部主査
五十嵐 敦

先日の商団連事務局研修会では大変お世話になりました。他団地の方との情報交換がいい刺激になりましたし、日常業務に追われつついつい忘れがちな事務局職員の初心に戻れた気がしております。その気持ちを胸に今年も頑張りたいと思います。



業務部主事
春山 心仁

これまで無趣味だった私ですが、昨年ようやく釣りという趣味ができました。

釣りの奥深さにまだまだ苦勞しておりますが、本年も公私ともに充実した1年になるよう頑張りたいと思います。



総務部主査
田中 静香

昨年は人生の分岐点に何度か直面しました。

今年自分がした選択に後悔することのないように過ごしていきたいと思えます。



総務部主査
鎌田 綾野

昨年は遂に人生の30周年を迎えました。新たなスタートとなった誕生日は35周年の東京デイズリゾートで過ごし、いろいろな方々に祝ってもらいました。

今年はお互いの家族旅行を計画します。お互いの家族旅行を計画し、今年も楽しい1年にしたいと思います。



郵便局窓口担当
鶴谷 優子

昨年は、腰痛で整骨院へ行ったところ、股関節が悪いことが判明しました。自覚症状は無いのですがあまり歩くとよくないというところで、自宅で筋トレの毎日です。今年の冬は治療に専念し、春には好きな山登りなど行けるようになればいいなと思います。



問屋町ストアパート
成田 あすか

昨年はストアがリニユアールオープンしたりと、仕事面では忙しい時期もありましたが、無事に「奮闘」と「休息」を3対7の割合で達成し、充実した1年となりました。

今年も1年、存分に自分を労

わっていいこうと思います。



問屋町ストアパート
門間 由紀子

去年2月からストアの担当になりました門間です。皆様のご指導をいただき、無事、新しい年を迎えることができました。

分らないことがまだまだ多く、今後ご迷惑をおかけするかと思いますが、一生懸命がんばりますので、よろしくお祈りいたします。



青森問屋町配送係業務部長
佐藤 博善

今、少子高齢化により人材不足の中で、運送業界もドライバー不足に燃料費の高騰が深刻な状況になっております。このような状況で、ご迷惑をお掛けした事もあるとは思いますが、皆様のご理解を賜り、誠にありがとうございます。

また、昨年は「事故ゼロ」を目標に努めた結果、交通事故は勿論のこと、作業中による労働災害も無く大変良い年でした。

本年も社員全員で無事故・無違反・労災ゼロを目標にがんばっていきます。



2019年 3つの価値創出によるエリアマネジメントで、 ビジネスパークを目指す

3つの価値創出で エリアをマネジメント

当組合は、一昨年の組合創立50周年にあわせて、問屋町が次の50年間も卸団地として存続し、「ビジネスパーク」へと飛躍するための「50周年宣言」を行った。「経済的価値」「社会的価値」「文化的価値」の3つの価値創出事業のトライアングルで卸団地のエリアマネジメントを行い、卸業の物流拠点を中核として、小売・サービス業や文化施設も備えた青森市の第二副都心ともなる「ビジネスパーク」を目指す。

2019年度の新たな取り組みとして、企業の人手不足感が

高まっていることを受け、組合員企業の人材確保への支援事業を始める。当組合も加入している青森県流通団地連絡協議会と地元大学の連携を図り、ポスターの掲示や合同企業説明会の開催を企画する。企業と大学生との接点をできるだけ増やすことで、組合員企業の認知度や採用力アップを支援したい。

経済的価値創出事業 高度化事業で組合員のリニューアル需要に対応

「経済的価値創出事業」とは、組合の存在基盤ともいえる高度化事業をはじめ、共同物流事業や共同駐車場等の収益事業をさし、団地資産の有効活用と管理

を担う組合運営の土台となる事業である。当組合は昨年度創立50周年を迎えたが、50年の歴史とともに施設の老朽化対策に取り組む時期に来ている。そこで今までの以上に重要度が増しているのが高度化事業。2016年度からの3年間で高度化事業を利用（診断受診含む）した組合員は4社に上り、既存建物の増改築や団地内での移転新築など多様なニーズに 대응する受け皿としてその機能を十分に発揮し、長期20年の固定金利で中小企業の資金調達を支えている。組合では引き続き、組合員への周知活動や利用計画の策定支援等による積極的なサポートを行っていく。

社会的価値創出事業 問屋町内交通死亡事故ゼロ 8千日達成を目指す

「社会的価値創出事業」とは、非収益事業の中でも環境事業や交通対策、安心・安全事業、近年注目を集めている健康事業など、企業の社会的責任に応えるために取り組むもので、共同化のメリットを享受しやすい事業である。環境事業で大きなウエイトを占めているのがごみ収集や紙類等リサイクル事業。組合では他

に先駆けて2002年からリサイクル事業に挑戦し、利用啓発や分別の徹底、回収メニューの充実にも努めてきた。それらの結果、2017年度の卸団地全体のリサイクル率は過去最高の67.4%となったほか、青森県から「あおもりECO」にこのフェイスのプレミアム認定を受けるなど、取り組みへの評価も高い。

健康事業では、8年目を迎えたインフルエンザ集団予防接種を1,030名が利用したほか、組合員の健康事業所認定も進んでおり、少しずつではあるが健康への取り組みの輪が広がっている。2019年度は問屋町会館ロビーに設置しているとんやまち保健室の機材充実を図るほか、各種レクリエーション事業による運動機会の提供などに積極的に取り組んでいく。

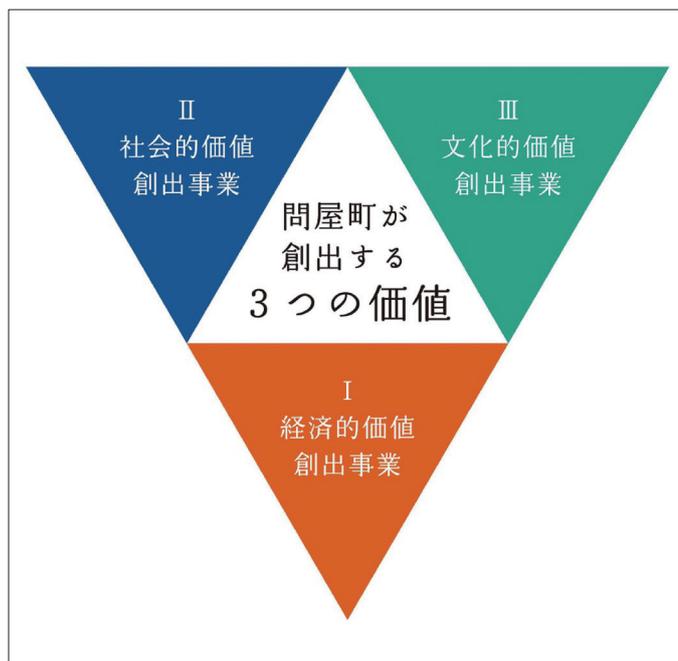
また、交通対策事業では、交通安全協会問屋町支部と協力して、目前に迫った問屋町内交通死亡事故ゼロ8千日達成（2019年9月22日）を目指す。

文化的価値創出事業 仙台校等と連携して充実 した研修メニューを提供

「文化的価値創出事業」とは、景観事業や問屋町ビジネススクールの事業、各種の交流事業やレクリエーション事業が対象で、人々の賑わいと多様な価値を持つビジネスパークを色づける事業である。

地域企業の人づくりを支える問屋町ビジネススクールでは、既存講座のブラッシュアップに加えて、働き方改革へ対応した労働時間に関する講座等を新設するほか、2018年度からスタートした中小企業大学校仙台校との連携によるサテライト研修を引き続き開催する。

景観事業では、団地内の花苗植栽管理や問屋町大通りへのフラワーボックス設置を実施するほか、定期的に組合員昼食会を開催し、組合員取り扱い商品の紹介やタイムリーな情報の提供を行う。



街頭指導で安全運転を呼びかける



中小企業大学校仙台校サテライト研修